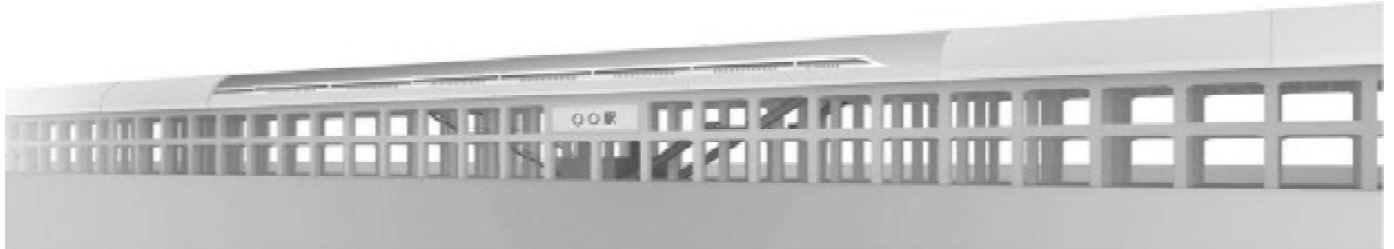


リニア中央新幹線の間接駅のイメージを発表



5月13日、リニア中央新幹線の間接駅のイメージを発表しました。会社が設置・運営する施設は設備管理事務所と旅客トイレ、入出場口、階段、エレベーター、エスカレーターに絞るとしています。つまり駅には営業窓口、待合室もなく、キオスクもなく、駅員も配置されない模様です。売店などは、高架下を貸すので地元自治体で運営してもいいですというものです。同時にイメージ図も発表しています。会社は「効率化と機能性を徹底して追求」「建設費のみならず、運営費についても圧縮する」と知らせています。

シンプル＝無機質＝機能なしの停留所！！

駅のイメージ図を見ると、リニアの駅というよりは閑散線区の間接所といった感じです。営業窓口がないことから切符を購入することもできません。利用する場合は、新たな乗車券販売システムを導入することで、間接所に券売機や切符売り場は設けないとしています。

そもそも会社は、間接所で収益をあげようと考えているのか疑問です。この間の東海労との交渉で、間接所の乗降客予測数を質問したところ、会社は示すことができないとして明らかにしませんでした。一方、岐阜県の自治体などは一日乗降数を5,000人と予測していますが、乗降客予測数によっては駅前開発の規模も変わるはずで、駅員もいない、切符も売っていない、売店もない駅で集客はできるのか疑問です。報道には「本来、駅の持つべきシンボル性を無視している」「通過する気マンマンなようにも思える」「あまりに殺風景すぎるのでは」といった声も挙がっています。

